

答 上牧順三(千葉大)

学童期以後の骨年齢では、大和田氏の文献により調べて居りますが、年少児では、現在のところ本邦には文献が見当らず、やはり Caffey Pediatric X-Ray のを参照して居ります。

21) 本邦小児の甲状腺機能の特質

°中島博徳, 上牧順三, 石井博  
新美仁男, 牧野忠夫, 原章子  
塩川喜之, 倉持正昭(千葉大)

(1) 新生児を除いた小児の PBI, 甲状腺 I<sup>131</sup> 摂取率は成人と差を認めず, 小児甲状腺機能の特殊性を窺い得なかつた。(2) 正常小児及び甲状腺疾患児に就き I<sup>131</sup>-thyroxine を静注し, 血中減衰曲線を求めた。血中半減期は小児は成人に比し短く, 年令と正の相関を示し, 亢進症では短く, 低下症では長く, 単純性甲状腺腫では正常値を示した。甲状腺外有機沃度量は単位体重当りで成人と著差を認めず, 亢進症では大, 低下症では小であつた。甲状腺外有機沃度崩壊量は単位体重当り小児は成人に比し著しく大で, 単位体表面積当りに換算すると各年令差が少い。亢進症, 低下症, 単純性甲状腺腫では夫々大, 小, 正常値を示した。(3) 甲状腺内ホルモン合成速度を paper radiochromatogram で見ると, 幼若家兎では成熟家兎より thyroxine 形成速度が著しく速かつた。(4) 以上より小児は成人に比し, thyroxine 代謝が速い事を知り, 小児甲状腺機能の特殊性を窺い得た。(5) 本邦児の便中 thyroxine 排泄率が欧米の報告より大であるのを見たので, 同一児に於ける和食, 洋食摂取時を比較すると, 前者に於て著しく大であつた。この事実の本邦児の体位に及ぼす影響の可能性ある事を指摘した。

22) 蛋白同化ホルモンの体重増加不良児に対する効果

有吉 徹(長野市)

Norandrostenolone Phenylpropionate (オルガノン社デュラポリン) を用い基礎的疾患を認めず, しかも体重増加の思はしからぬ, 食慾不良の患児を用ひ主として体重増加に重点をおき観察した。なほ体重増加の極端でなくなる年齢即ち満1才前後から2才前後の小児5例を撰び, 週1回5mg を筋注, 4~5回投与したところ全例に体重増加を著しく認め, 又食慾亢進, 顔貌に活気を帯びる様になつて来た。

なほ副作用は1例も認められず, 注射後も極端な

体重減少は認められなかつた。

質問 神田勝夫(君津病院)

薬剤投与中止の時期又は条件はどうして居りますか。

答 有吉 徹(長野市)

注射は一応4乃至5回で一旦休薬しておりますが, 注射を何時中止したらよいか未だ, 長期中止した例がありませんので判然としません。なほ, 注射中止後, 私の症例では更に体重の増加傾向を示すもの, 又, やゝ減少するものもありますが, 注射前の体重に逆戻した例はありません。

追加 森 和夫(国立千葉)

我々は最近蛋白同化ホルモンとして Durabolin を使用し, 効果をもとめましたので追加致します。

第1例は9カ月女児 栄養失調症兼脳性マヒ

第2例は3カ月男児 栄養失調症

いずれもこの前に2~3カ月にわたり種々の育児指導, 食慾亢進剤, 又2例には Apeton 等をも使用しましたが, 少しも体重増加はみられず, Durabolin 使用によつて, 1例では約30日で690grの増加をみとめました。この様な増加率はこの児では未だかつてなかつたことでもあります。

23) 仮性小児コレラに対するグルコサミナイドの投与経験

津田康之(甲府市立)

Bifidus 菌発育促進因子であるグルコサミナイド(ベビーファクター)を仮性小児コレラ患児及び乳幼児下痢症児に投与し, 次の成績を得た。

仮性小児コレラの本剤投与群の平均治癒日数2.8日, 3日以内治癒69.2%, 4日以内84.6%, 対照群に於ては平均治癒日数5.3日, 3日以内14.3%, 4日以内42.9%, 他の下痢症患児平均治癒日数4.3日, 3日以内33.3%, 4日以内66.6%であつた。

以上の成績から仮性小児コレラに対しベビーファクターは有効であつたと思はれるが, 作用機序に疑問があり, 更に検討を続けたい。

追加 岩沢 敬(山梨県立)

小児仮性コレラに対し, Glucosaminide の経口投与は有効と思うが, 各位の追試で批判を願う。

24) 本年度急性肺炎の臨床的レ線学的観察

°森 和夫, 渡辺 福  
(国立千葉)

昭34年度48例, 35年度59例の急性肺炎の病像をレ線所見を中心にして分類検討した。レ線所見を